

令和6年度大学入学者選抜実態調査の結果 (概要)

1 目的

各大学・短期大学が実施した令和6年度入学者選抜について、選抜区分毎に詳細を把握し、設置主体別等の状況分析を行う。

2 調査時期および調査方法

令和6年7月16日～令和6年8月30日 eメールによる調査票の発送及び回答票回収
(令和6年9月25日までの回収分を集計)

3 調査対象

国公私立の全ての大学783校・短期大学286校：計1,069校（大学院のみを設置する大学、学生募集停止中及び通信教育のみを行う大学・短期大学を除く。）

以下、本報告書において、「全体」は大学及び短期大学の集計、「大学全体」は大学のみの集計、「短期大学全体」は短期大学のみの集計を指す。

4 回答率

100% (1,069校 (81,372選抜区分))

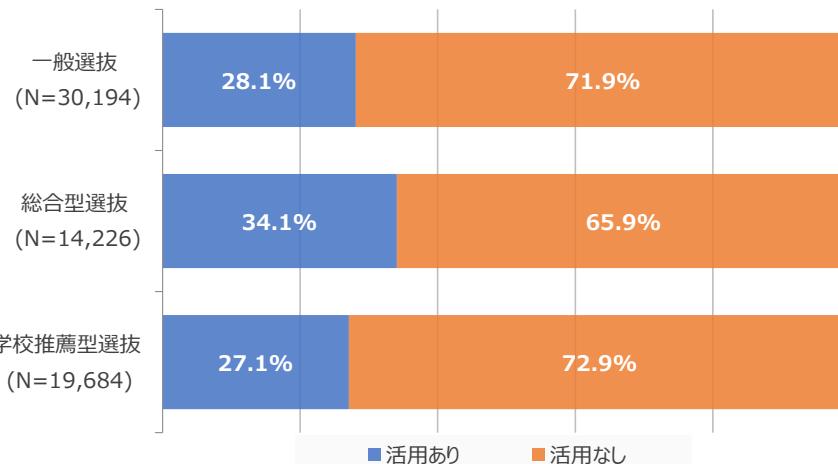
英語資格・検定試験の活用の実態

英語資格・検定試験活用の有無（大学）

英語の資格・検定試験の活用がある選抜区分は、一般選抜で28.1%、総合型選抜が34.1%、学校推薦型選抜が27.1%である。

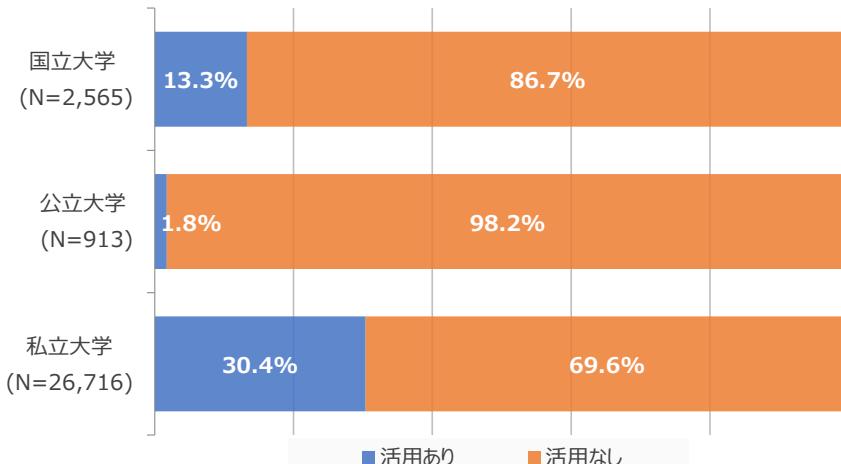
大学全体

(n=64,104選抜区分・単数回答)



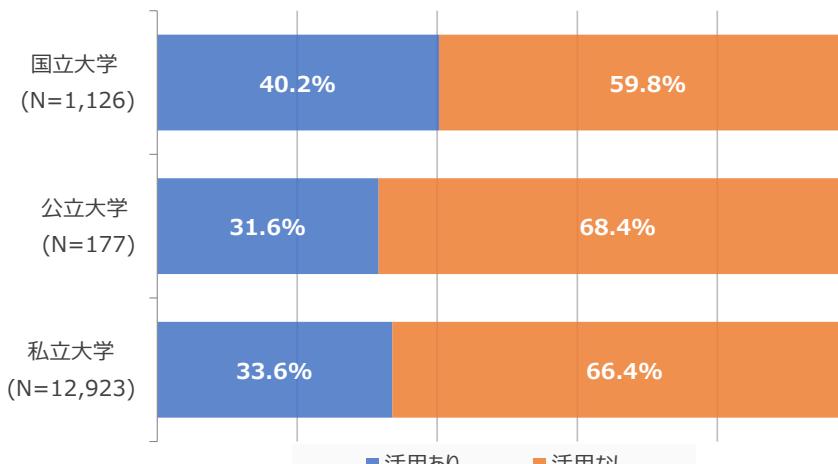
一般選抜

(n=30,194選抜区分・単数回答)



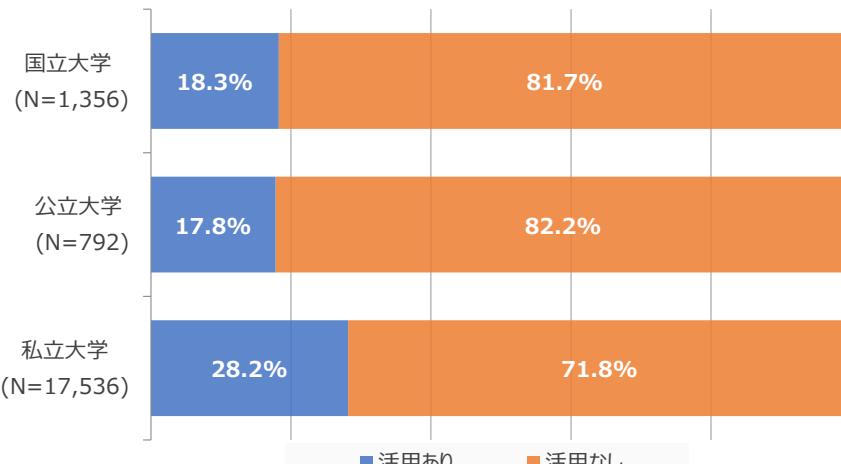
総合型選抜

(n=14,226選抜区分・単数回答)



学校推薦型選抜

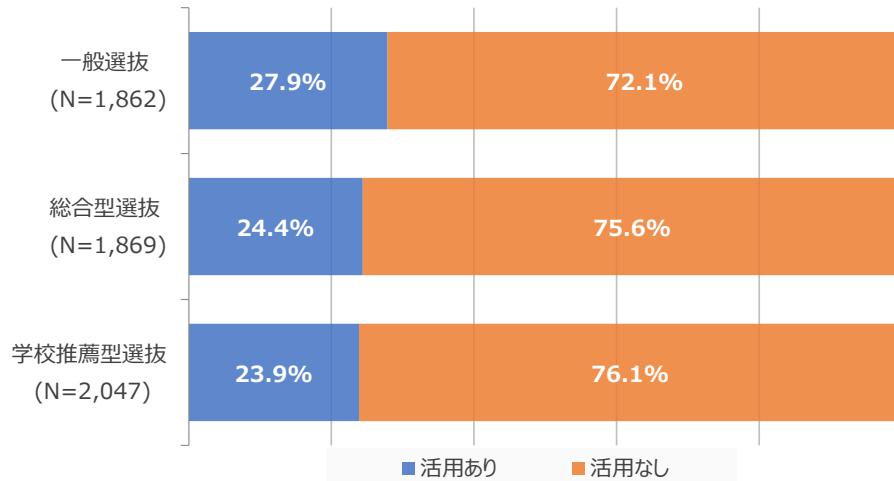
(n=19,684選抜区分・単数回答)



英語資格・検定試験活用の有無（短期大学）

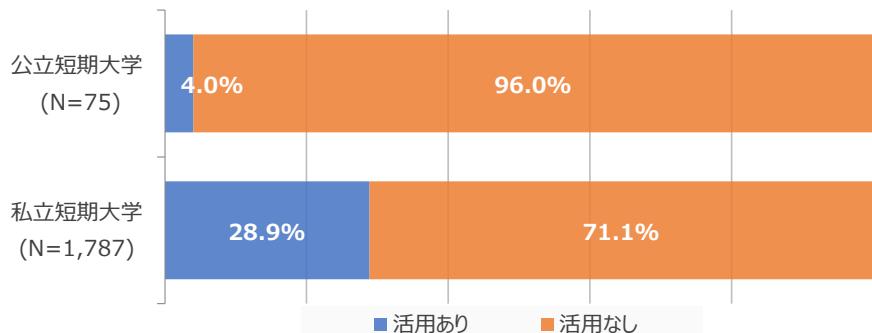
短期大学全体

(n=5,778選抜区分・単数回答)



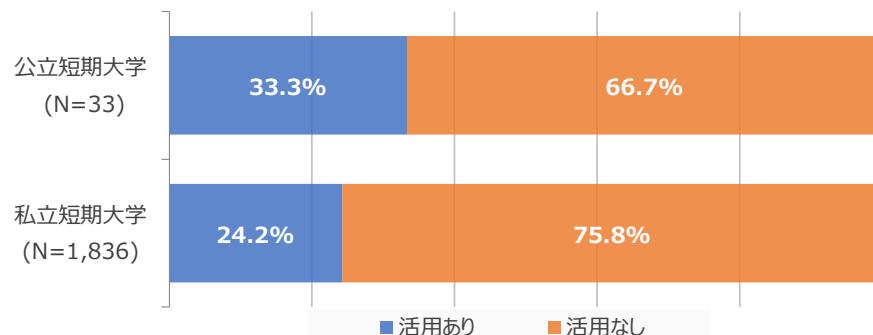
一般選抜

(n=1,862選抜区分・単数回答)



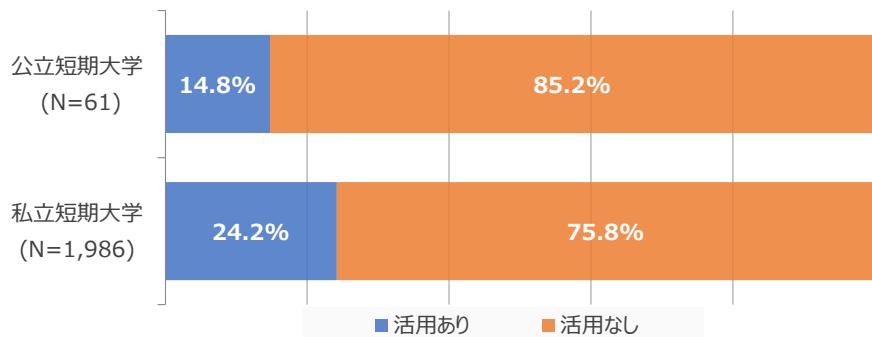
総合型選抜

(n=1,869選抜区分・単数回答)



学校推薦型選抜

(n=2,047選抜区分・単数回答)

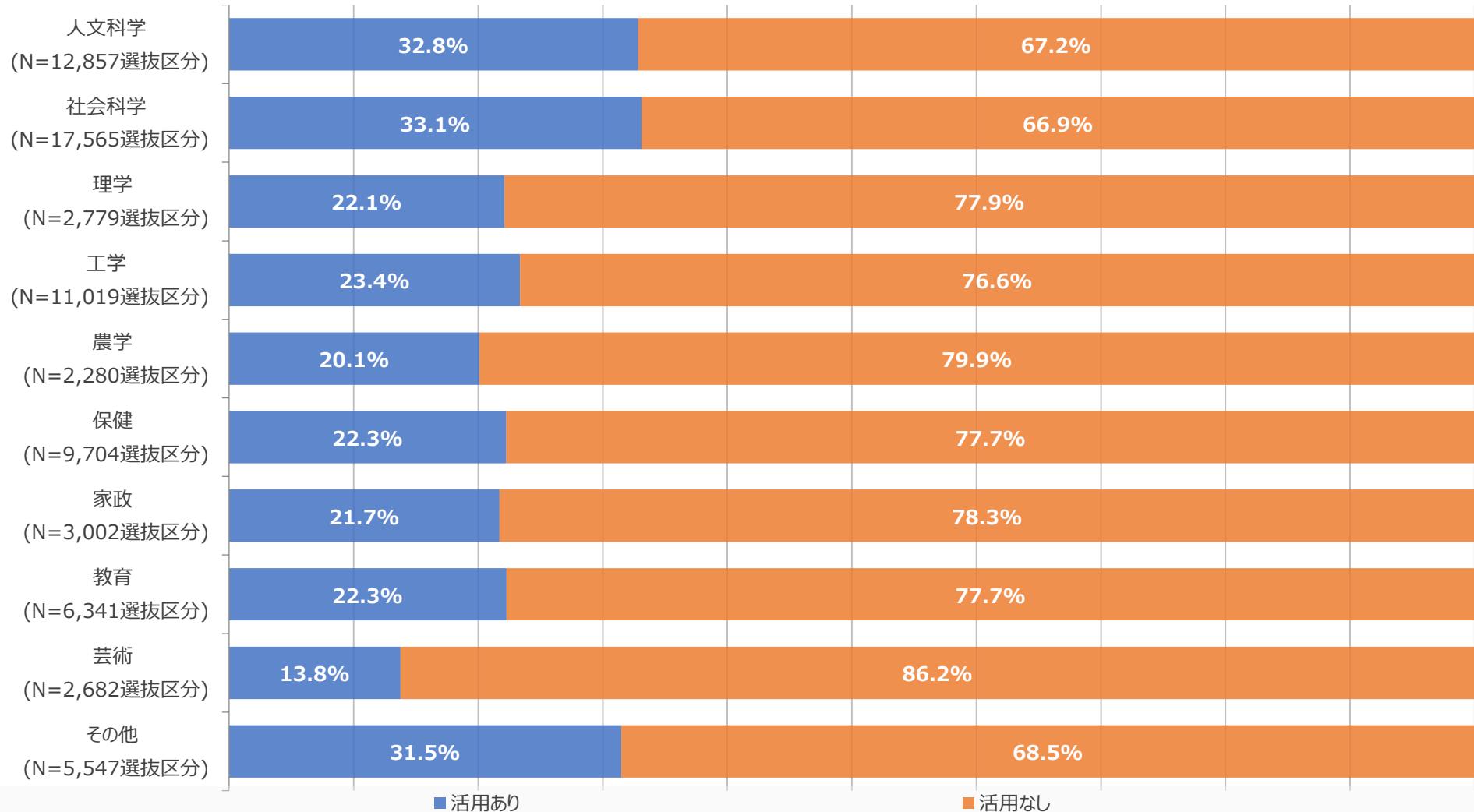


英語資格・検定試験活用の有無（大学）

英語の資格・検定試験の活用率を学科系統分類別でみると、活用が多い順に、社会科学（33.1%）、人文科学（32.8%）、工学（23.4%）である。

学科系統分類

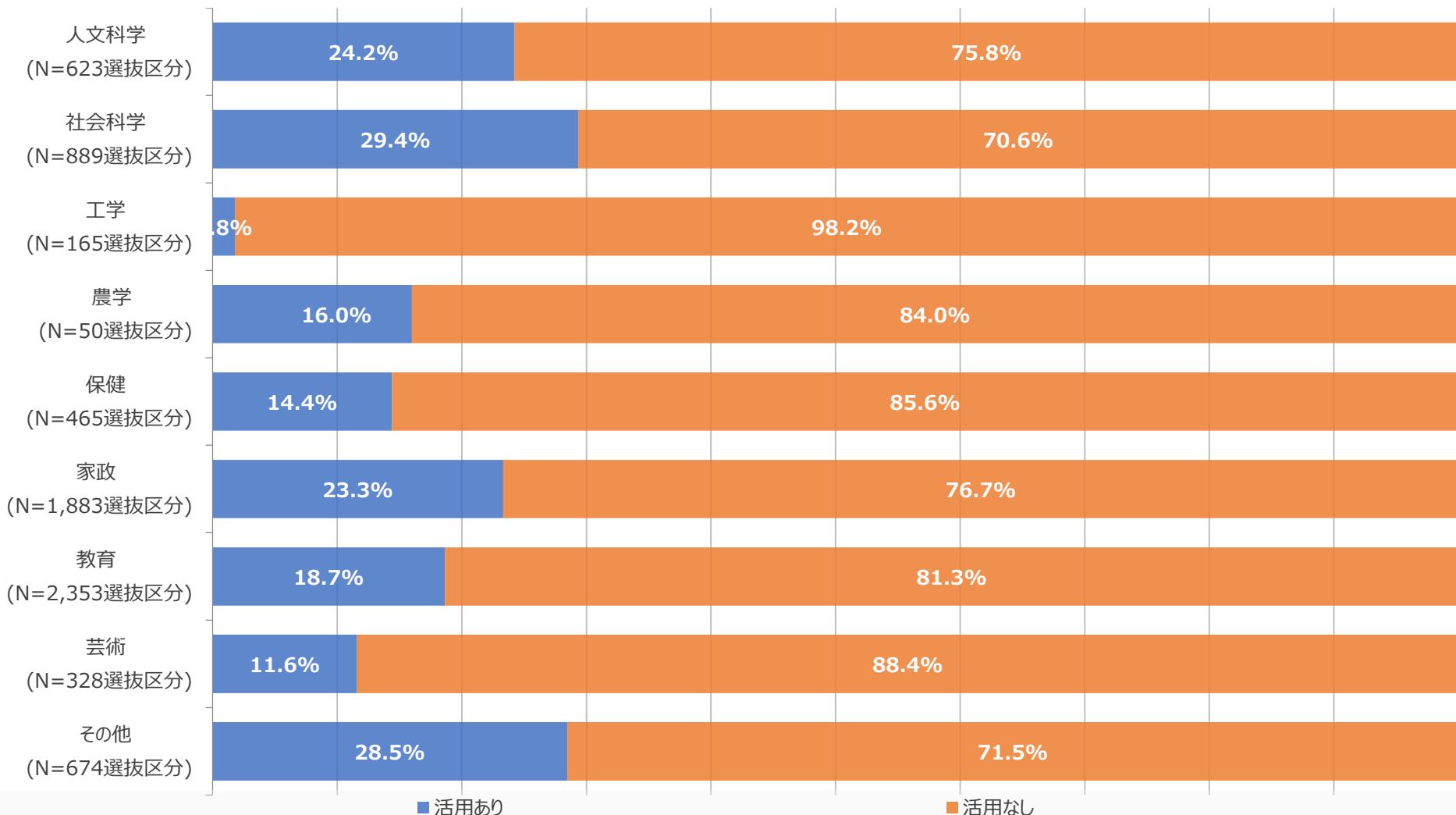
（単数回答）



英語資格・検定試験活用の有無（短期大学）

学科系統分類

(単数回答)



※短期大学は、理学の選抜区分なし

英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数（大学）

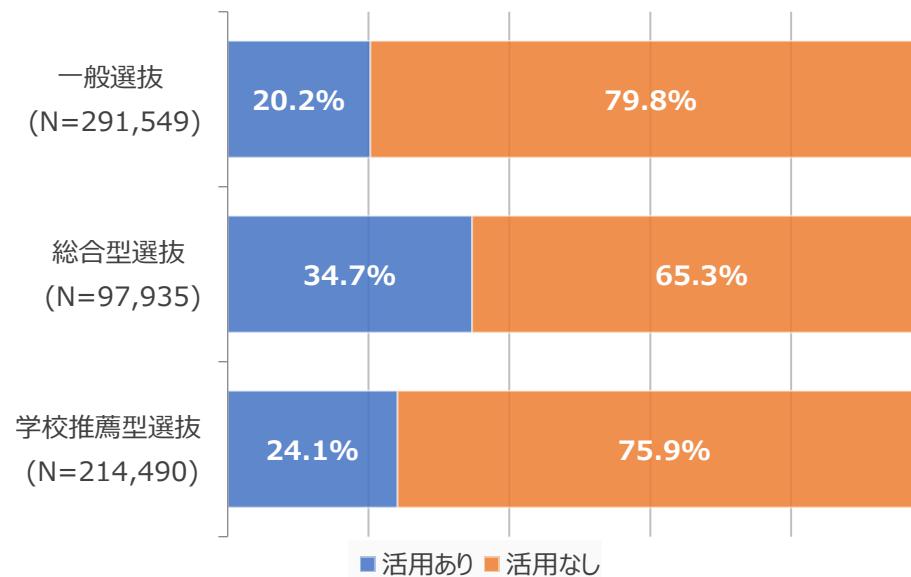
英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により入学した者は、一般選抜が58,992人、総合型選抜が33,979人、学校推薦型選抜が51,727人の計144,698人である。

大学全体

(n = 603,974人)



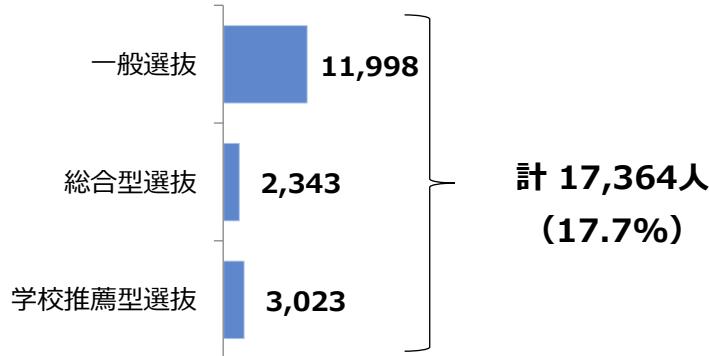
【選抜方法別毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】



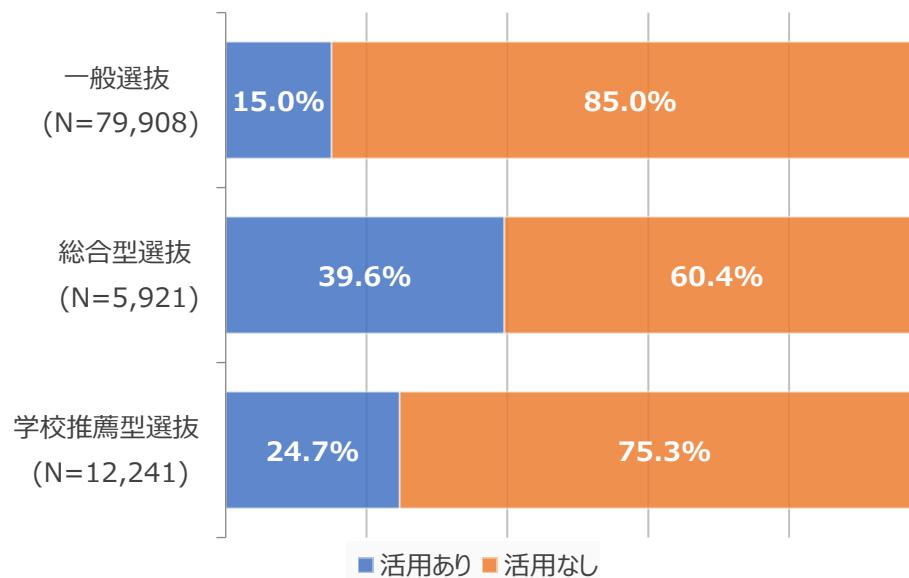
英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数（国立大学）

国立大学において、英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により入学した者は、一般選抜が11,998人、総合型選抜が2,343人、学校推薦型選抜が3,023人の計17,364人である。

国立大学 (n = 98,070人)



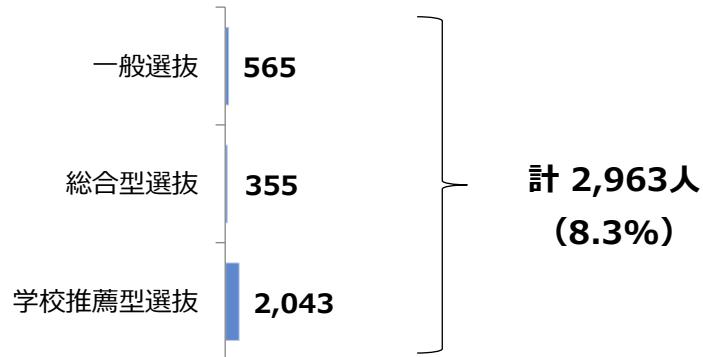
【選抜方法別毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】



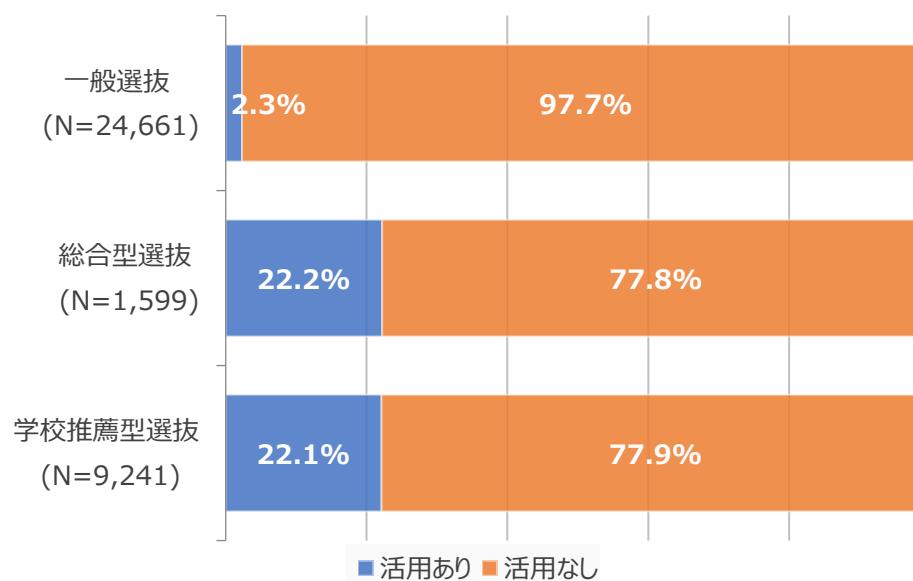
英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数（公立大学）

公立大学において、英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により入学した者は、一般選抜が565人、総合型選抜が355人、学校推薦型選抜が2,043人の計2,963人である。

公立大学 (n = 35,501人)



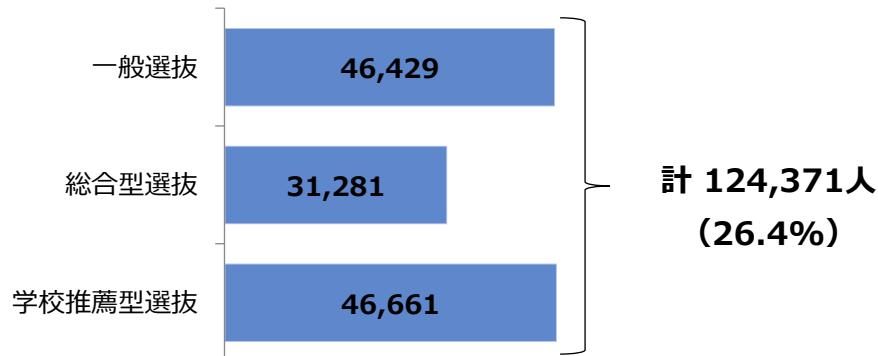
【選抜方法別毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】



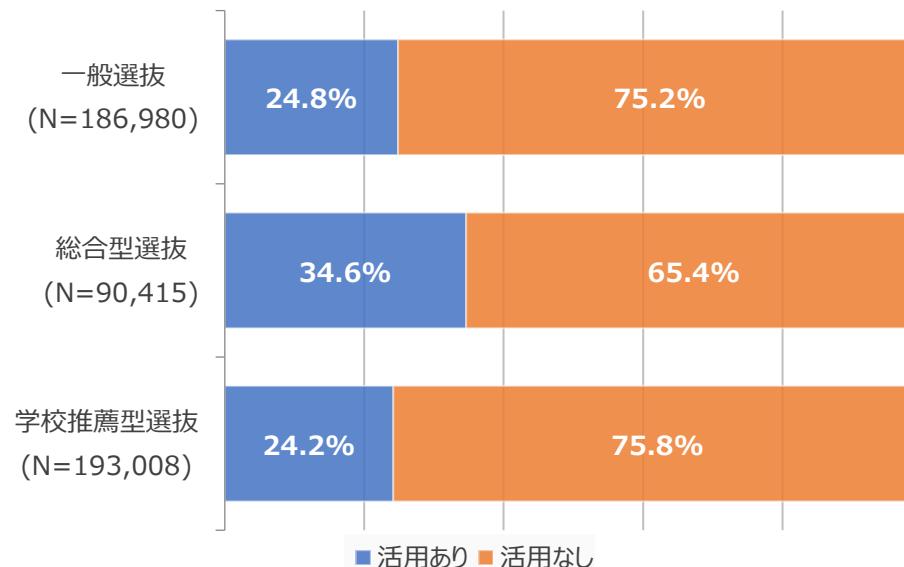
英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数（私立大学）

私立大学において、英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により入学した者は、一般選抜が46,429人、総合型選抜が31,281人、学校推薦型選抜が46,661人の計124,371人である。

私立大学 (n = 470,403人)



【選抜方法別毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】

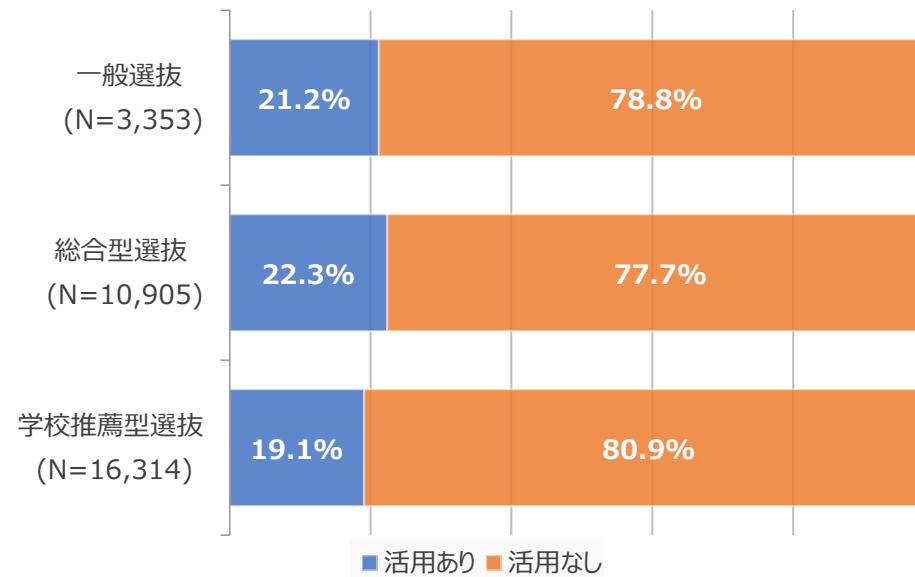


英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数（短期大学）

短期大学全体 (n = 30,572人)



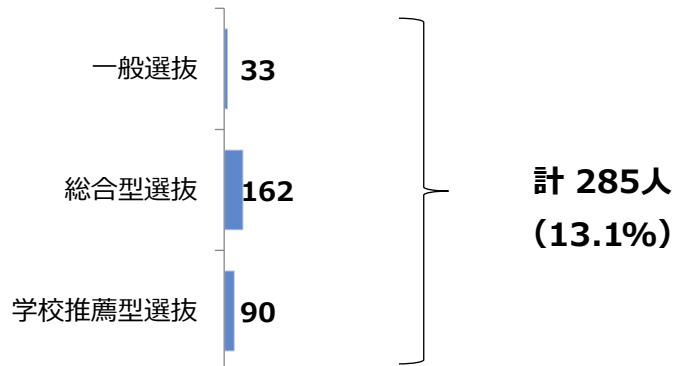
【選抜方法別毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】



英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数（短期大学）

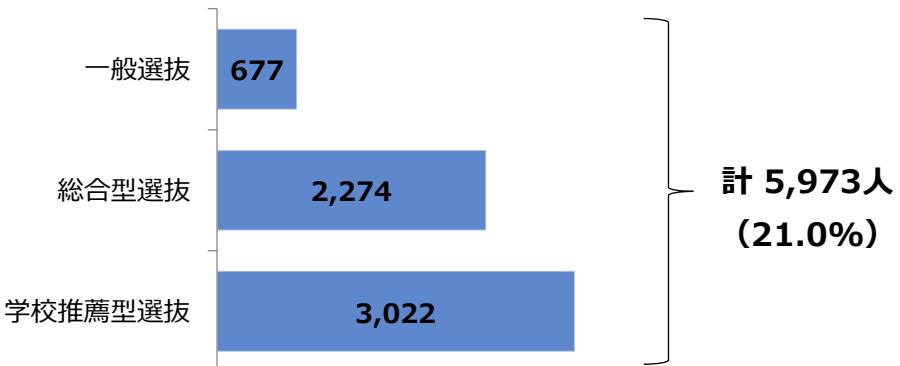
公立短期大学

(n = 2,170人)

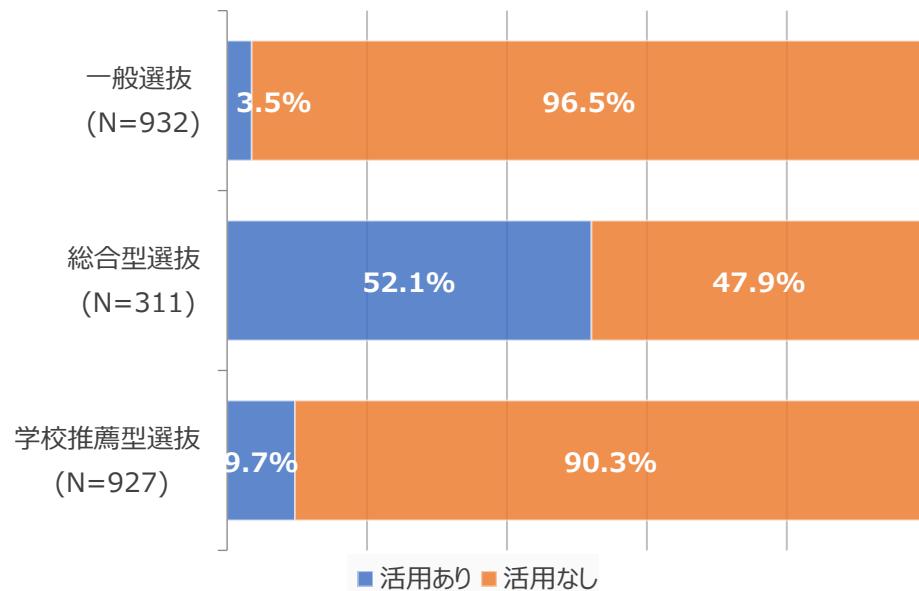


私立短期大学

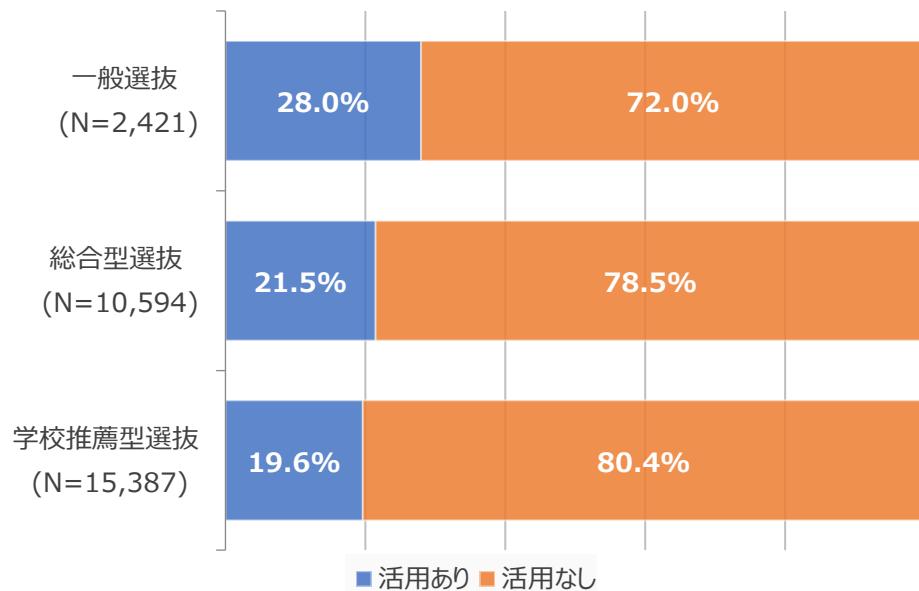
(n = 28,402人)



【選抜方法別毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】



【選抜方法別毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】

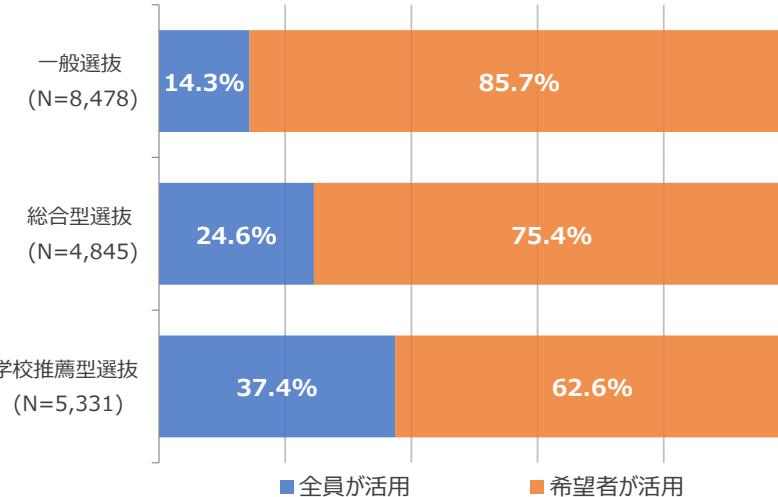


英語資格・検定試験活用の範囲（大学）

英語の資格・検定試験を活用している選抜区分のうち、全員が活用している割合は、一般選抜で14.3%、総合型選抜が24.6%、学校推薦型選抜が37.4%である。

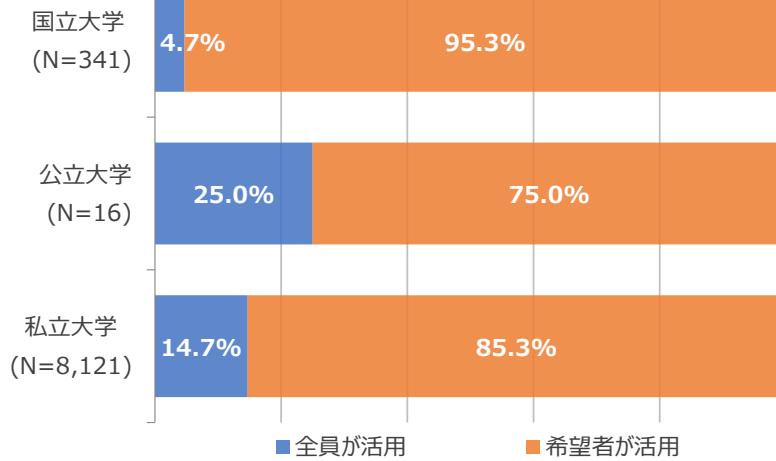
大学全体

(n=18,654選抜区分・単数回答)



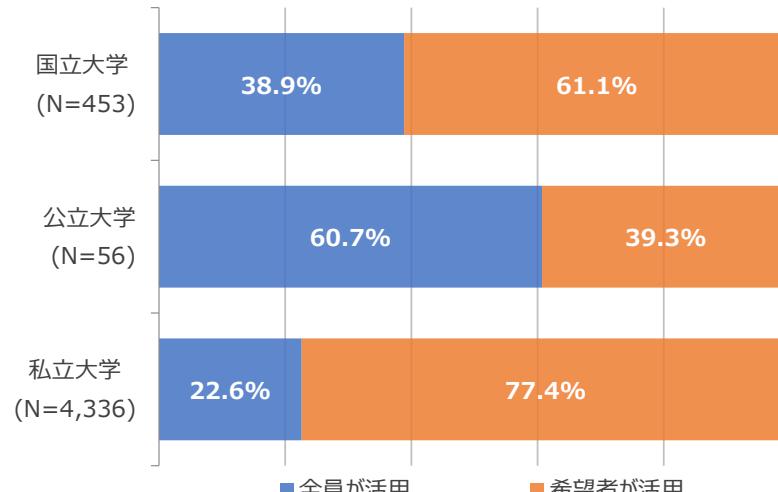
一般選抜

(n=8,478選抜区分・単数回答)



総合型選抜

(n=4,845選抜区分・単数回答)



学校推薦型選抜

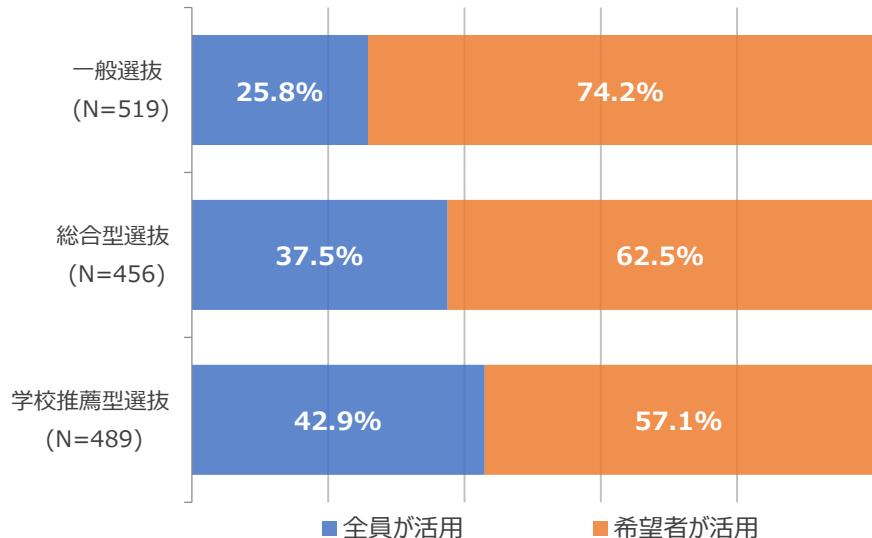
(n=5,331選抜区分・単数回答)



英語資格・検定試験活用の範囲（短期大学）

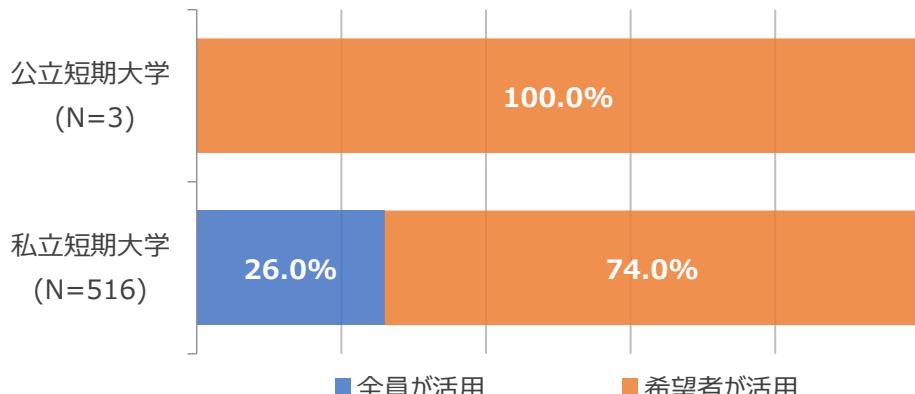
短期大学全体

(n=1,464選抜区分・単数回答)



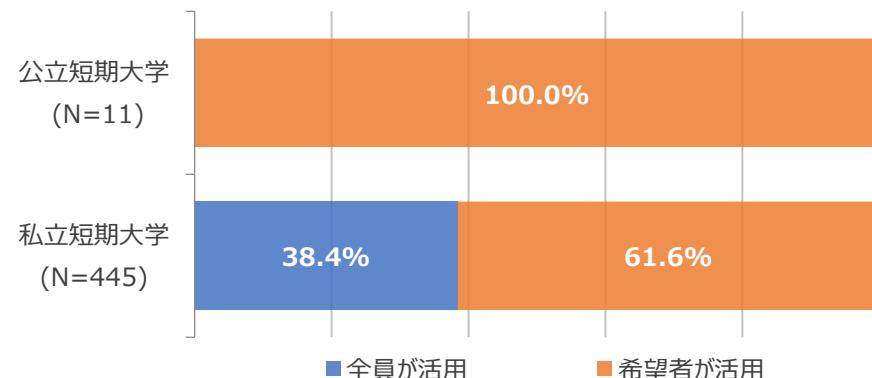
一般選抜

(n=519選抜区分・単数回答)



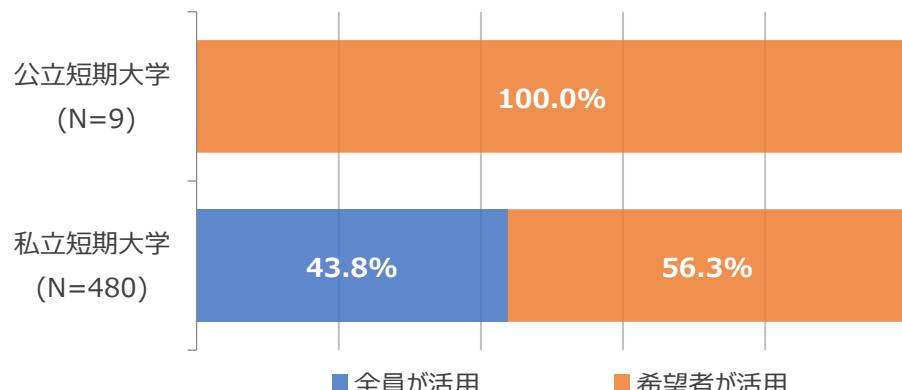
総合型選抜

(n=456選抜区分・単数回答)



学校推薦型選抜

(n=489選抜区分・単数回答)

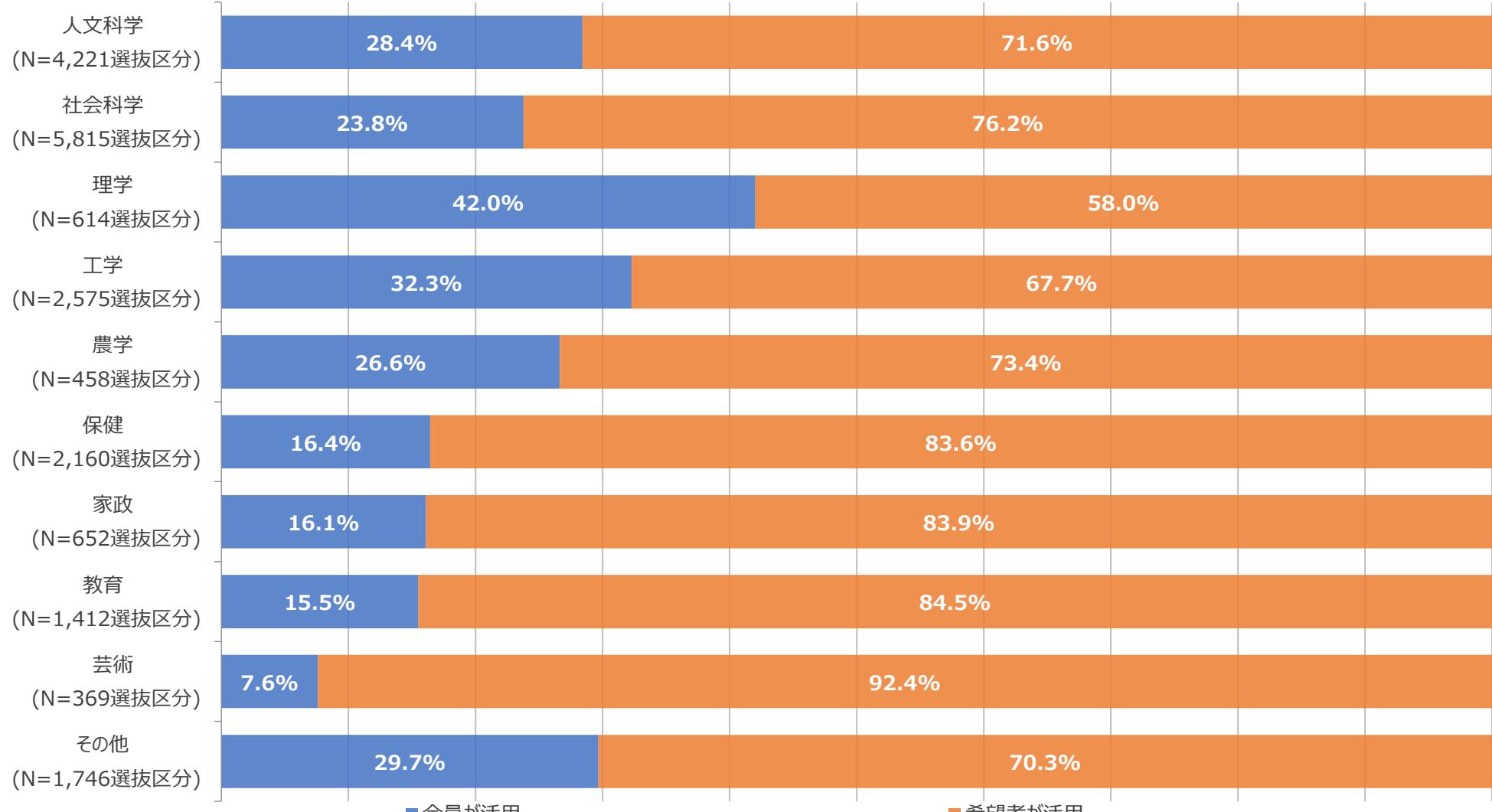


英語資格・検定試験活用の範囲（大学）

英語の資格・検定試験を活用している選抜区分のうち、全員で活用している割合を学科系統分類別にみると、多い順に、理学（42.0%）、工学（32.3%）、人文科学（28.4%）である。

学科系統分類

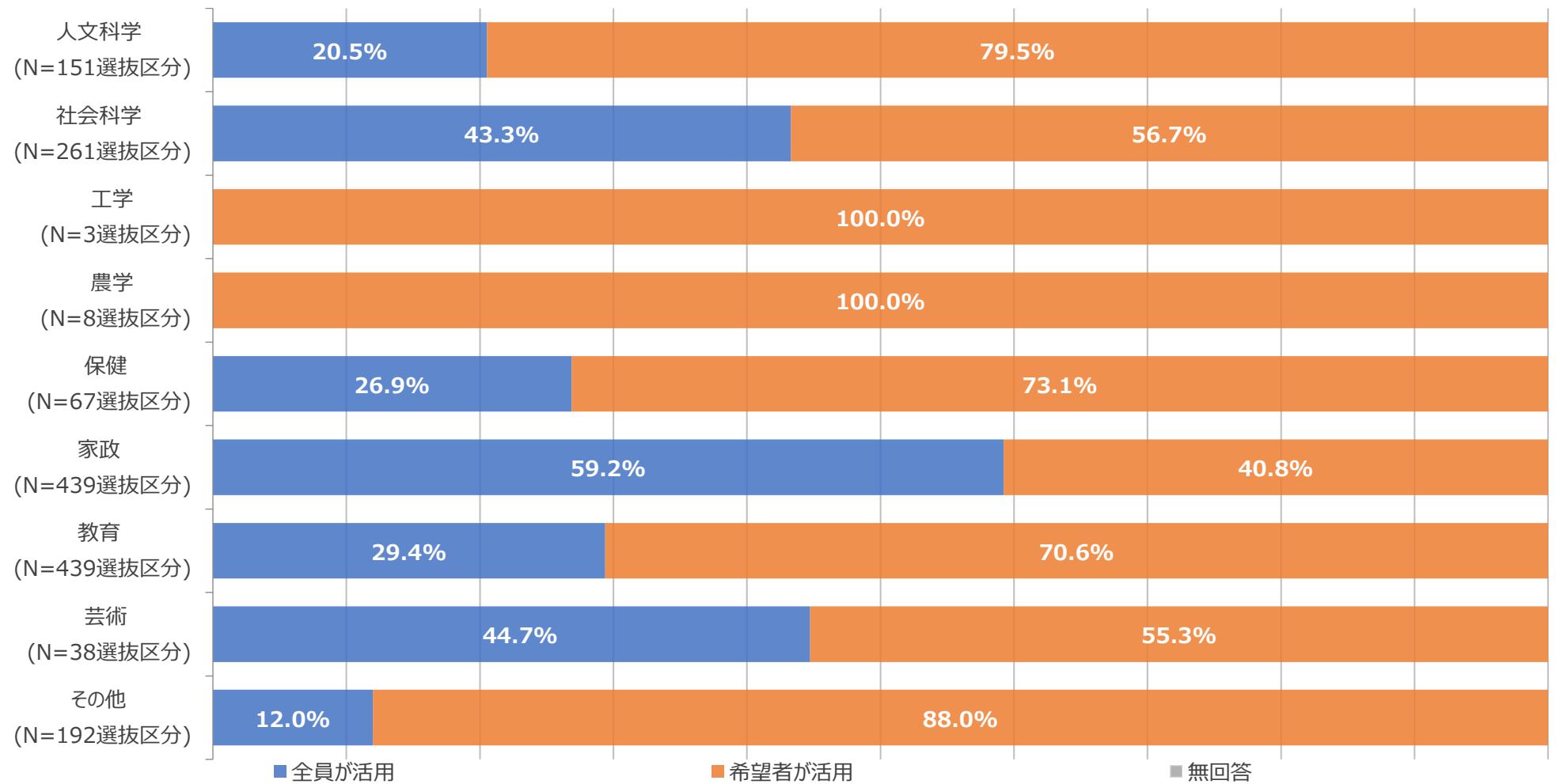
（単数回答）



英語資格・検定試験活用の範囲（短期大学）

学科系統分類

(単数回答)

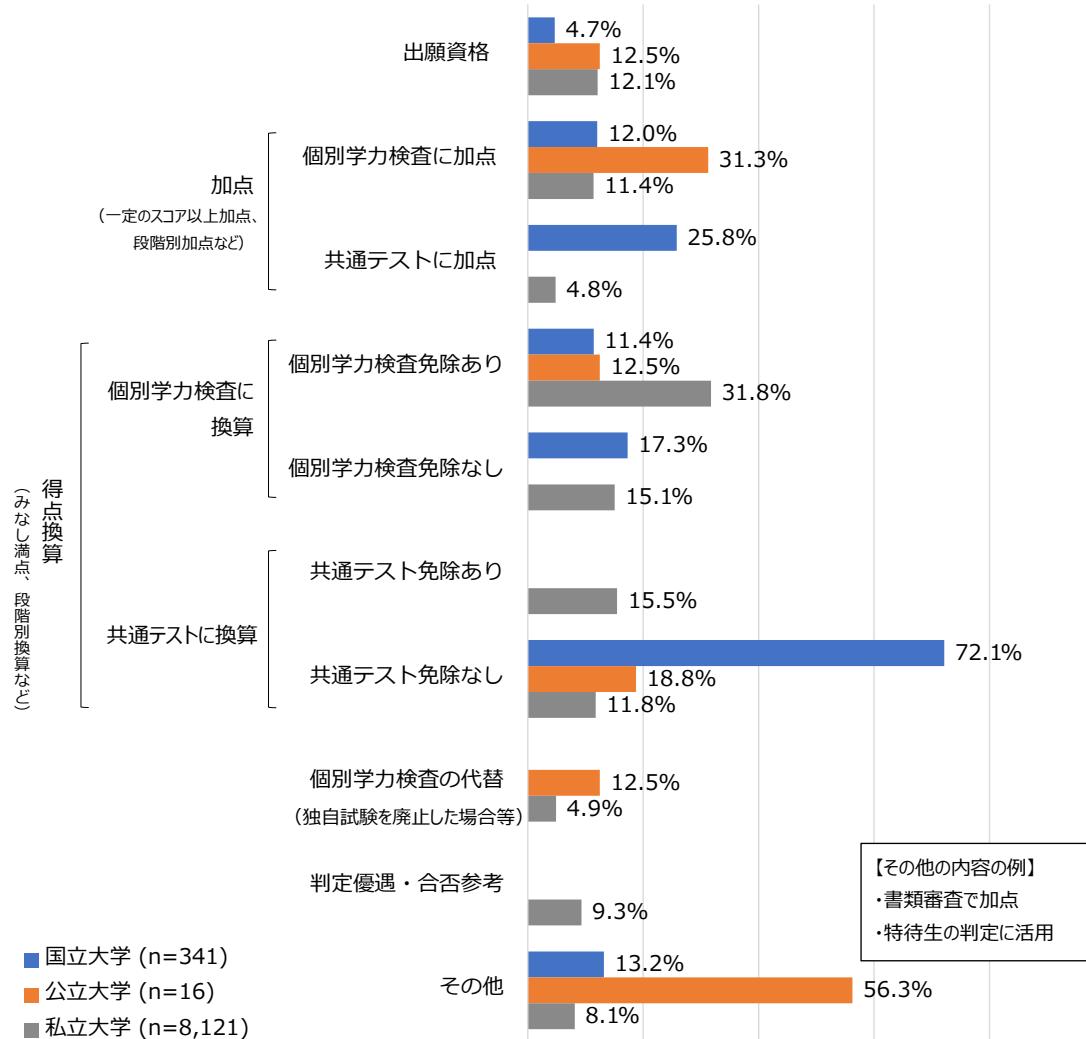


※短期大学は、理学の選抜区分なし

英語資格・検定試験活用方法（一般選抜）

一般選抜における活用方法としては、国立大学では共通テストに換算（免除なし）が72.1%、公立大学では個別学力検査に加点が31.3%、私立大学では個別学力検査に換算（免除あり）が31.8%で最も多い。

大学 (複数回答)



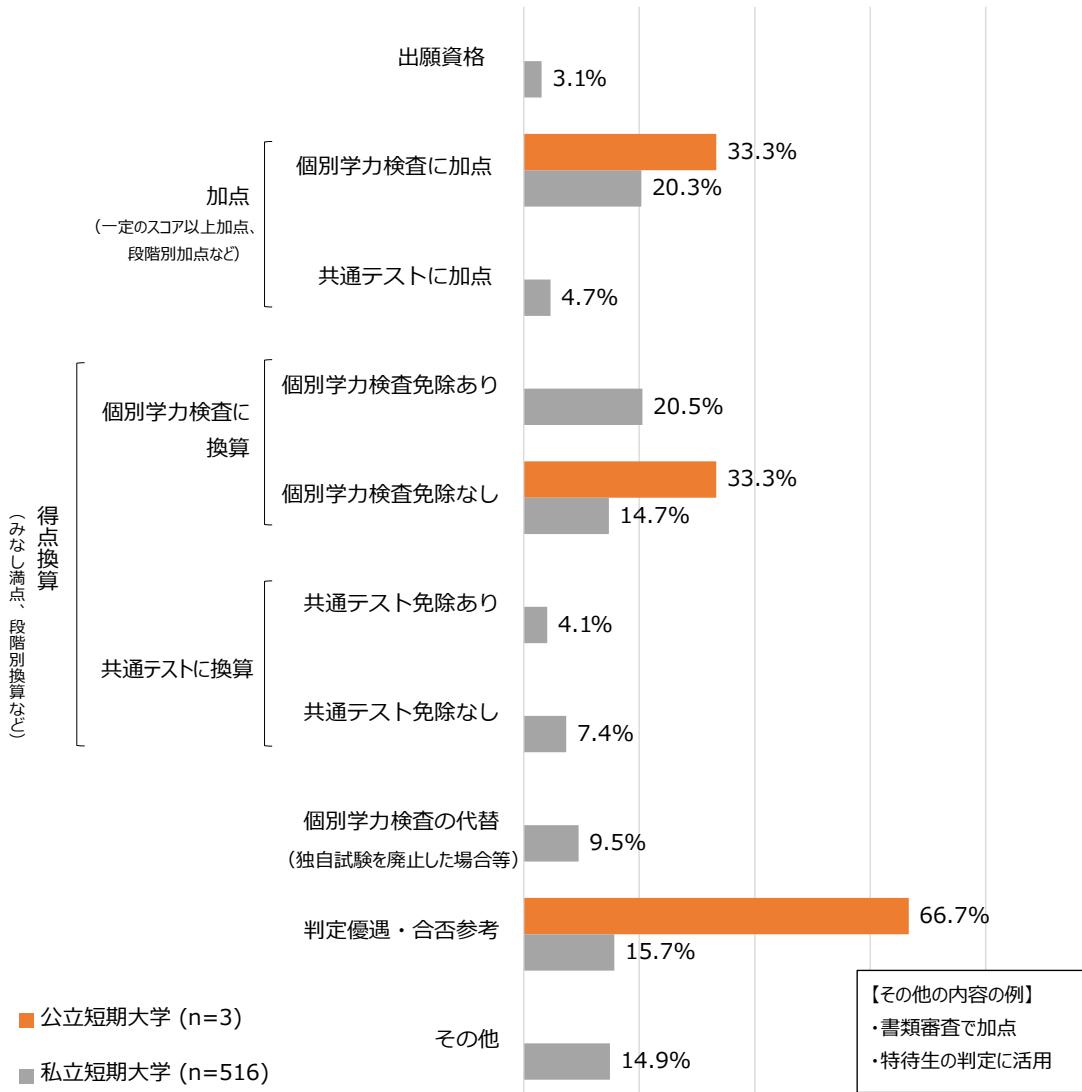
- 出願資格：出願する上での必須要件としている。
- 加点：個別学力検査又は共通テストの点数に「加点」している。
- 得点換算：個別学力検査又は共通テストの点数に「換算」（置き換え）している。
- 個別学力検査の代替：大学独自の英語試験を設けず、英語資格・検定試験の成績のみを個別学力検査の成績として用いている。
- 判定優遇・合否参考：英語資格・検定試験の成績によって合否判定を優遇したり、英語資格・検定試験の成績を合否判定の参考にしたりしている。

【その他の内容の例】
 ・書類審査で加点
 ・特待生の判定に活用

英語資格・検定試験活用方法（一般選抜）

短期大学

(複数回答)



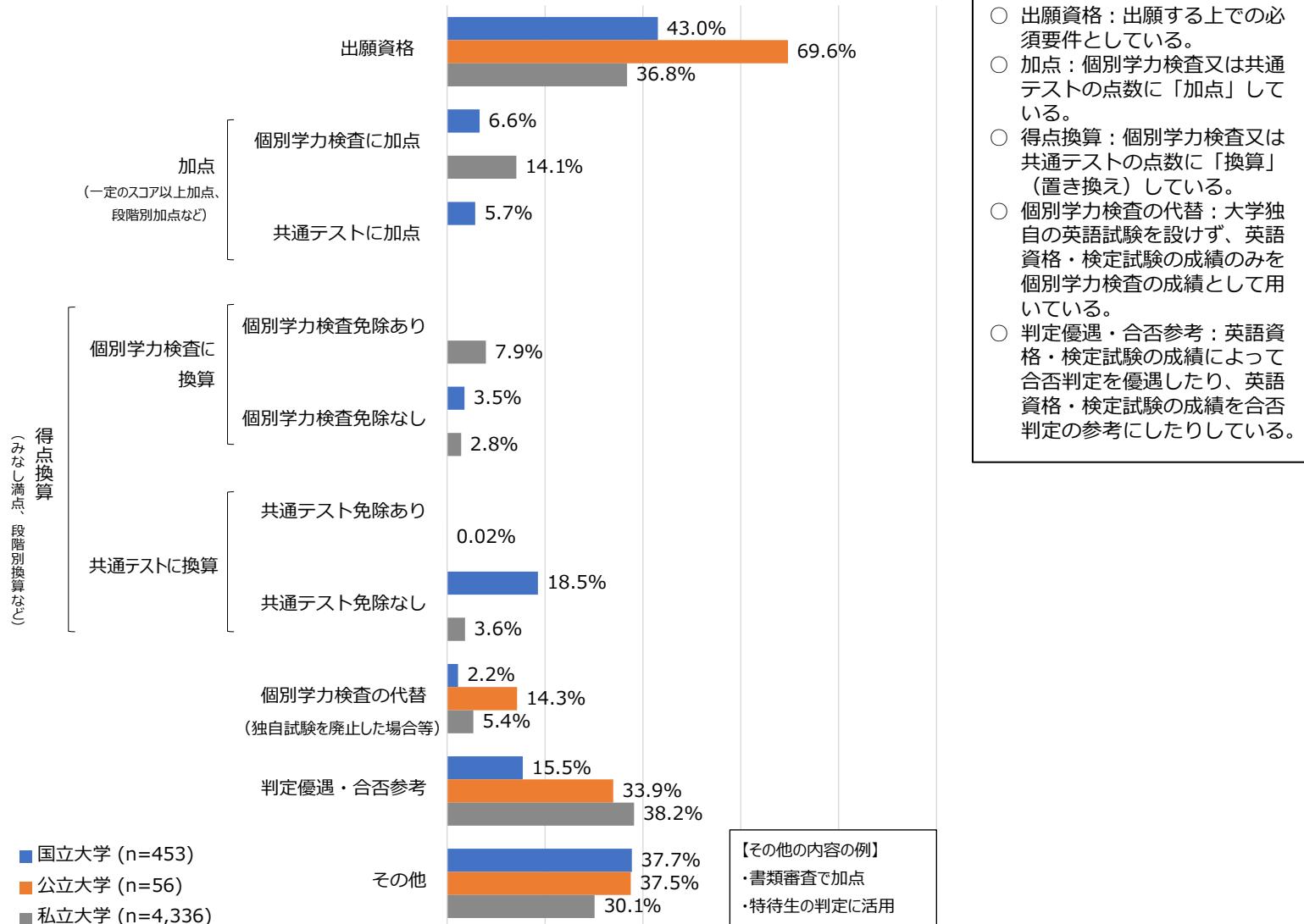
- 出願資格：出願する上での必須要件としている。
- 加点：個別学力検査又は共通テストの点数に「加点」している。
- 得点換算：個別学力検査又は共通テストの点数に「換算」（置き換え）している。
- 個別学力検査の代替：大学独自の英語試験を設けず、英語資格・検定試験の成績のみを個別学力検査の成績として用いている。
- 判定優遇・合否参考：英語資格・検定試験の成績によって合否判定を優遇したり、英語資格・検定試験の成績を合否判定の参考にしたりしている。

【その他の内容の例】
 ・書類審査で加点
 ・特待生の判定に活用

英語資格・検定試験活用方法（総合型選抜）

総合型選抜における活用方法としては、国立大学では出願資格が43.0%、公立大学では出願資格が69.6%、私立大学では判定優遇・合否参考が38.2%で最も多い。

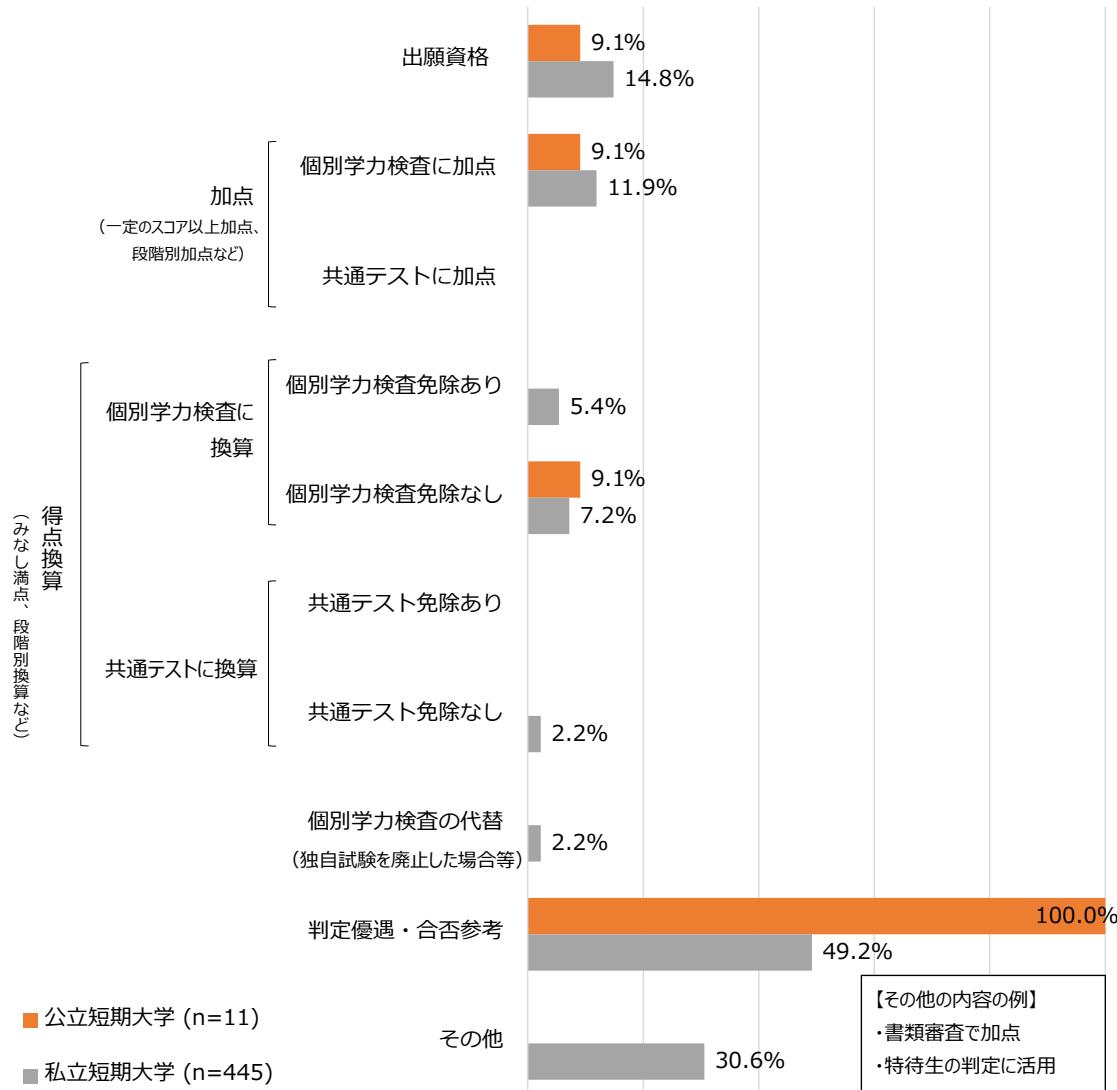
大学 (複数回答)



英語資格・検定試験活用方法（総合型選抜）

短期大学

(複数回答)

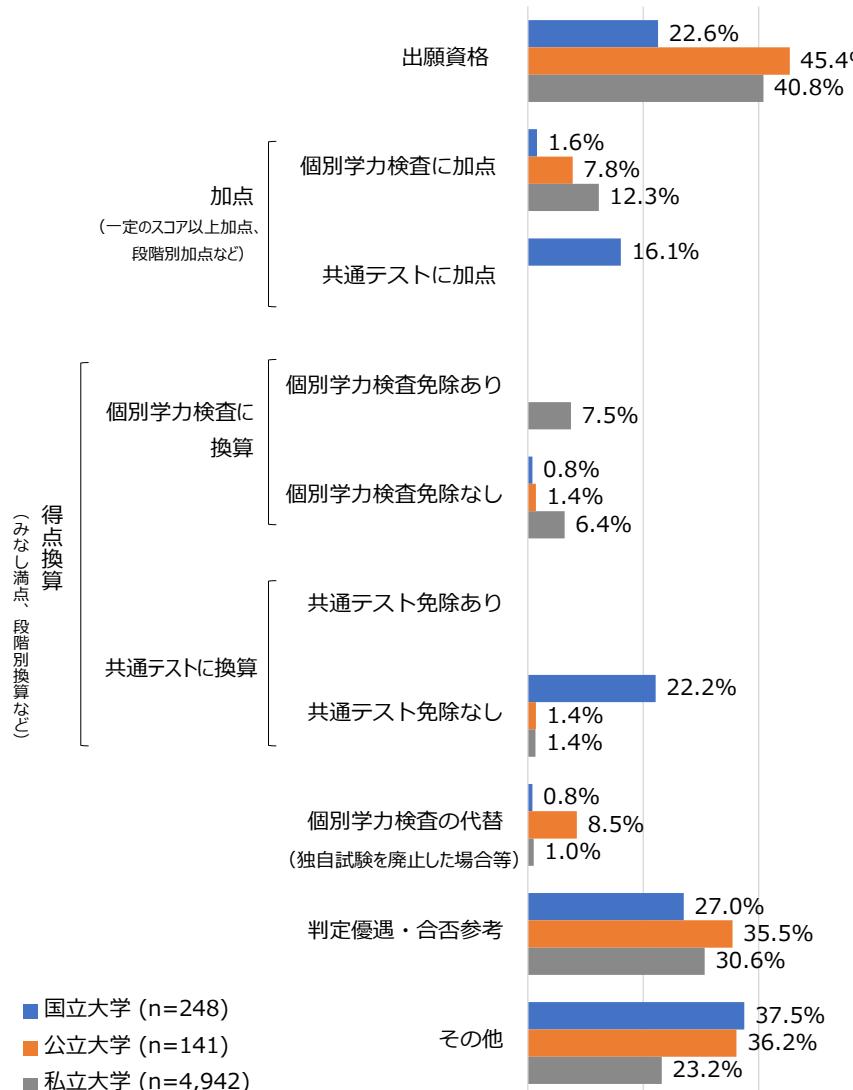


- 出願資格：出願する上での必須要件としている。
- 加点：個別学力検査又は共通テストの点数に「加点」している。
- 得点換算：個別学力検査又は共通テストの点数に「換算」（置き換え）している。
- 個別学力検査の代替：大学独自の英語試験を設けず、英語資格・検定試験の成績のみを個別学力検査の成績として用いている。
- 判定優遇・合否参考：英語資格・検定試験の成績によって合否判定を優遇したり、英語資格・検定試験の成績を合否判定の参考にしたりしている。

英語資格・検定試験活用方法（学校推薦型選抜）

学校推薦型選抜における活用方法としては、国立大学では判定優遇・合否参考が27.0%、公立大学では出願資格が45.4%、私立大学では出願資格が40.8%で最も多い。

大学 (複数回答)



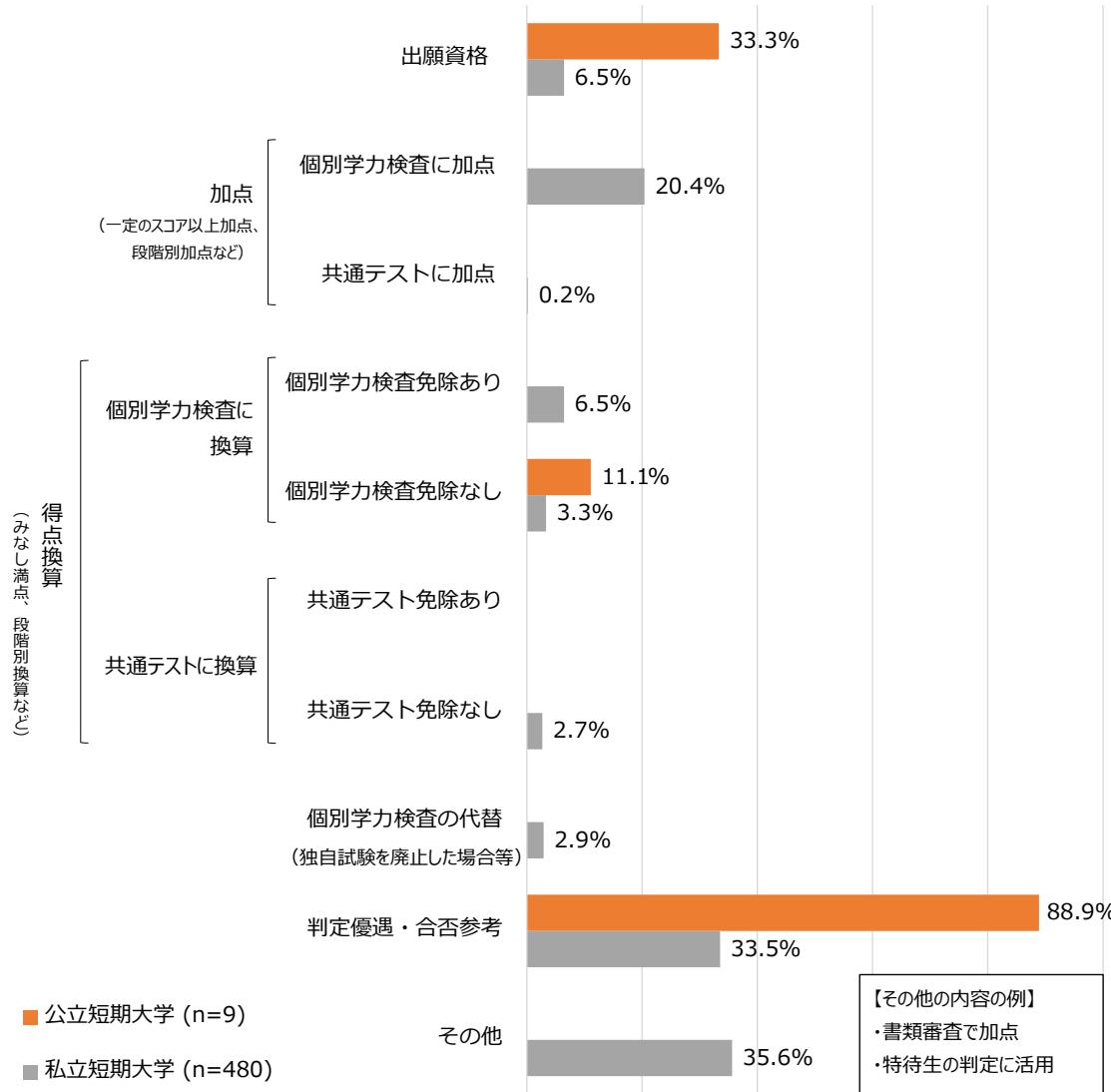
- 出願資格：出願する上での必須要件としている。
- 加点：個別学力検査又は共通テストの点数に「加点」している。
- 得点換算：個別学力検査又は共通テストの点数に「換算」（置き換え）している。
- 個別学力検査の代替：大学独自の英語試験を設けず、英語資格・検定試験の成績のみを個別学力検査の成績として用いている。
- 判定優遇・合否参考：英語資格・検定試験の成績によって合否判定を優遇したり、英語資格・検定試験の成績を合否判定の参考にしたりしている。

【その他の内容の例】
・書類審査で加点
・特待生の判定に活用

英語資格・検定試験活用方法（学校推薦型選抜）

短期大学

(複数回答)

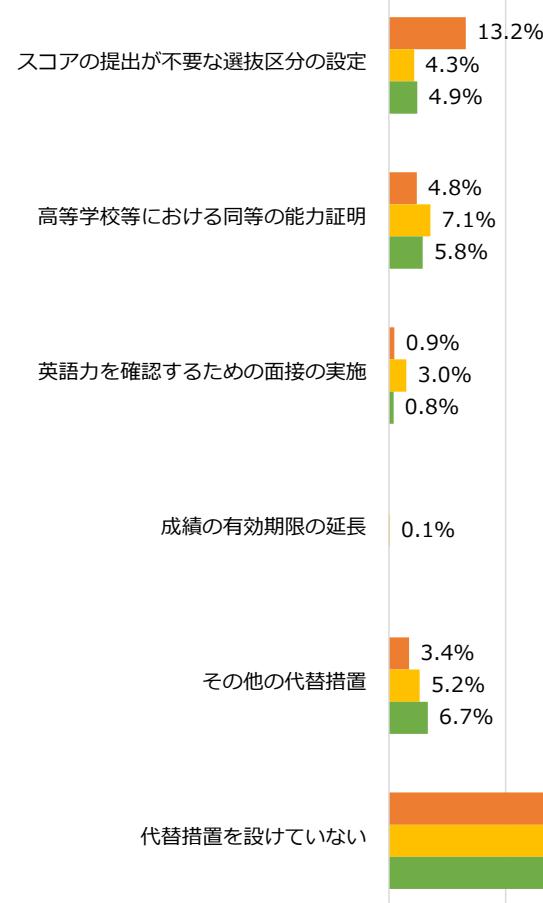


- 出願資格：出願するまでの必須要件としている。
- 加点：個別学力検査又は共通テストの点数に「加点」している。
- 得点換算：個別学力検査又は共通テストの点数に「換算」（置き換え）している。
- 個別学力検査の代替：大学独自の英語試験を設けず、英語資格・検定試験の成績のみを個別学力検査の成績として用いている。
- 判定優遇・合否参考：英語資格・検定試験の成績によって合否判定を優遇したり、英語資格・検定試験の成績を合否判定の参考にしたりしている。

英語資格・検定試験のスコアが提出できない場合の代替措置

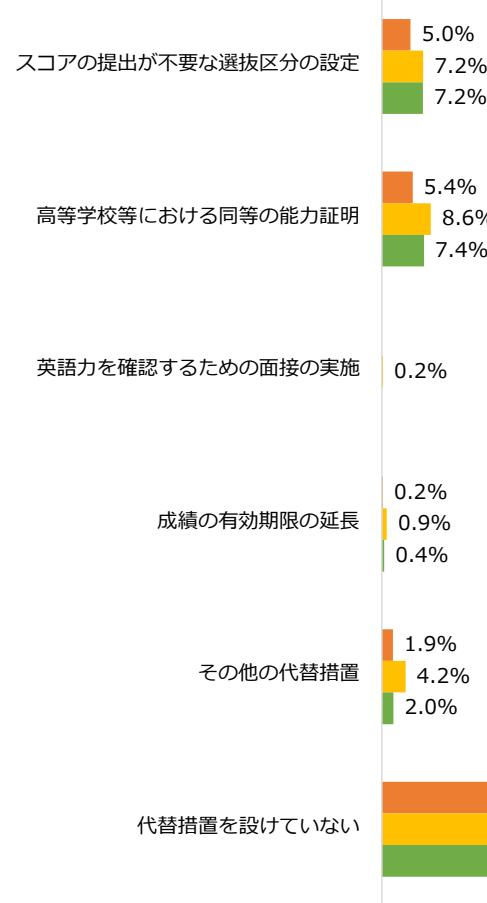
大学全体

(n=18,654選抜区分・複数回答)



短期大学全体

(n=1,464選抜区分・複数回答)



【その他の内容の例】

- ・個別試験で対応
- ・他の要件で対応

■ 一般選抜 (n=8,478)
 ■ 総合型選抜 (n=4,845)
 ■ 学校推薦型選抜 (n=5,331)

【その他の内容の例】

- ・個別試験で対応
- ・他の要件で対応

■ 一般選抜 (n=519)
 ■ 総合型選抜 (n=456)
 ■ 学校推薦型選抜 (n=489)